

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進(55)



～ 子どもをどう大切にするか ～

石垣市立白保小学校 校長 松尾望

石垣市に勤務してから4ヶ月がたった。朝、正門前や校長室前に立ち検温をしていると、登校してきた白保小学校の子どもたちが「おはようございます！」としっかりとあいさつをしてくれる。スポーツや体を動かすことが好きな子が多く、「敬語」を使える子もたくさんいて驚いた。地域や保護者のバックアップのおかげで、また職員の毎日のがんばりのおかげで、子どもたちはのびのび元気に登校している。

石垣市の「勇気づけの教育」は、すべての子どもたちが環境に左右されることなく、尊重され、安心して学び、よさや可能性を広げる学校づくりを目指して推進されている。だから私たち学校職員は、リスペクトの精神で子どもたちの人権を尊重し、自己肯定感を高め、困難を乗り越えて一歩前に進もうとする「生きる力」を育もうと努めている。

このような考え方で子どもたちを育てていくことは、これまでの、またこれからの教育において本当に大切なことであると思う。子どもの「安心感」こそ最優先課題と位置づけ、「子どもには無限の可能性はある」と捉え、子どもの人として大切な価値や正義を認め、褒める。これは、私たち教職員だけでなく、子どもに関わるすべての大人にとって大事であると考えている。

かつて本県でも、子どもの指導・支援が難しい時期があり、時に学校が荒れ、大きな事件や事故が起こることもあった。私自身もどう子どもたちと向き合い接したらよいか迷い、数え切れないぐらいのまちがいや失敗、試行錯誤を繰り返してきた。子どもを大切に思う気持ちは強かったけれども、どのように大切にしたらいいのか、どうしたらその気持ちがうまく伝わるのかが分かっていなかった。

そのような中で、長い期間を経て子どもの人権尊重や特別支援教育など個に応じた指導・支援の重要性が認識され、法が整備されて私たち大人のコンプライアンス意識が高まったころから、少しずつ変化が見え始めたように思う。学校では男女混合名簿が導入され、職員も子どもたちへの「～さん」づけの呼称、丁寧なことばづかいなどを意識するようになった。頭ごなしに指導するのではなく、子どもの言うことをまずは「傾聴」し、「共感・理解」しようとする姿勢をとるようになった。全県的に学校が落ち着き、学力向上に繋がりがつつあるのも、このような大人の変化と無関係ではないだろう。

親や教師が子どもを大切に思い、幸せを願う気持ちは、昔も今も同じであるし、どこの家庭・どこの学校でも同様である。けれども、どのように大切にするのかによって、成長の度合いは変わってくる。まず第一に、子どもを一人の人間として尊重し、家庭や学校を安心・安全に生活できる場にするよう、今後も継続して意識していきたい。

コロナ禍で景気が低迷し、世の中の情勢への不安が高まる中で、あらゆる生活環境のすべての子どもたちに、どんなときでも一歩前に進む「勇気」をつけさせたい、自分の可能性を信じて豊かな人生を切り開いてほしい、という願いのもと、あいかわらず私も白保小学校職員も試行錯誤は続いている。目の前の白保小学校115名の子どもたちも、これからの長い人生、困難にも直面するであろう。そんなとき、子どもたちに関わる大人の一人として、「大丈夫、なんとかなる」「あなたならできると思うよ」「きっとなりたい自分になれる」「人生は、これからが楽しいよ」と伝え続け、これからの沖縄・日本・世界を支える未来ある若者たちの成長を見守っていくつもりである。



1学期終業式の日、通知表をもらった3年生のみなさん